

## 地域の伝統を次世代へ 天間こんにゃくプロジェクト

### 取組のポイント

- ・地域の伝統や文化の継承に向け、近隣自治会(全17自治会)等で組織した協議会で取組を実施。

### 取組主体

朝日大平山ひとまもり・まちまもり協議会

地区内人口:約19,000人 地区内世帯数:約9,800世帯



プロジェクトメンバー

### 1 きっかけ

- ・かつてはコンニャクイモの産地として知られた天間地区では、各家庭や地域の伝統として手作りの「天間こんにゃく」が地域で大切に受け継がれてきたが、人口減少や住民の高齢化が進み、作り手が減少傾向にあった。
- ・地元で栽培したコンニャクイモで作る「天間こんにゃく」を次世代に引き継いでいこうという思いから朝日大平山ひとまもり・まちまもり協議会による取組が開始。

### 2 取組内容と成果

- ・朝日大平山ひとまもり・まちまもり協議会が主体となり、地元生産者や大分県の協力を受け、令和6年から約10aでコンニャクイモの栽培を開始した。
- ・収穫したコンニャクイモを活用し、手作りこんにゃく体験会やグルメイベントを開催し、「天間こんにゃく」の認知度向上やコンニャクイモの栽培を通じて地域外の関係人口の増加が図られた。

### 3 今後の展望

- ・伝統や文化の次世代継承、農業の多様な担い手の掘り起こしに繋がることが期待される。



種芋の植え付け風景



グルメフェスタの様子

## 地域の特色を活かした地域間・世代間交流 さつまいも・しいたけ収穫体験



東山の棚田（城島地区）

### 取組のポイント

- ・近隣自治会（全18自治会）等で組織する鶴見・南立石・東山ひとまもり・まちまもり協議会による地域内の小学1年生を対象とした農産物の収穫体験会の実施

**取組主体** 鶴見・南立石・東山 ひとまもり・まちまもり協議会  
地区内人口：約19,000人 地区内世帯数：約10,100世帯

### 1 きっかけ

- ・令和3年4月に発足した取組主体である協議会の中で、広域連携による自治機能の維持や地域コミュニティの活性化、地域の歴史・伝統・文化の継承について意見を交わす中で、地域の特色を活かした地域間・世代間イベントとして農産物の収穫体験が始まった。

### 2 取組内容と成果

- ・普段の生活で農業に触れる機会の少ない市街地に住む小学1年生や地元の小学生が校区や世代を超えて合同でサツマイモやしいたけの収穫体験を実施し、世代間交流や農業に対する理解の醸成が図られた。
- ・収穫したサツマイモとしいたけを家庭の食材として実際に使用することで、地産地消や食育の観点からも効果があった。

### 3 今後の展望

- ・農業にふれあう機会が少ない子どもたちが実際に農作業を体験することにより地域の農業や農産物に対する理解が深まることが期待される。



サツマイモ収穫体験



しいたけ収穫体験

## 地域の「宝の山」を朝市で販売「ひがしやまマルシェ」

## 取組のポイント

- ・地域住民の出資により設立・運営されている地元農業法人が主体となり、地域の農産物や農産加工品を販売する朝市(ひがしやまマルシェ)を運営。

## 取組主体 株式会社 東山パレット

設立:平成26年6月 出資者:185名(地域住民や地域出身者等)



東山の棚田(城島地区)

## 1 きっかけ

- ・東山地区で収穫されないまま放置されていた柿や枇杷を見て、「宝の山がある」と感じた地区外出身の社員からの提案をきっかけに、中山間地域等直接支払交付金等を活用して令和6年11月から朝市を毎月開催することとなった。

## 2 取組内容と成果

- ・朝市を開催することで、東山地区で生産された農産物や農産加工品の魅力の発信や朝市に訪れる都市住民との交流により、地域の活性化が図られた。
- ・農産物の集出荷作業を(株)東山パレットが担うことで生産者の負担軽減を図り、普段は農産物の出荷を行っていない生産者の出荷を促すことで、生産者の意欲や所得の向上に繋がった。

## 3 今後の展望

- ・市内で生産者が主体となって農産物等の販売イベントを定期的に行っている事例は他になく、地域内外にこのような取組みが浸透・波及していくことが期待される。



朝市の様子



地域の野菜等を販売

## 「おいちゃんうどん」に赤味を添えて ～トウガラシ栽培～

### 取組のポイント

- ・地域住民の手で育て、打ち、提供することで地産地消や地域愛着を大切に。
- ・旬の地元食材を使ったうどんを提供し、関係人口の拡大。

### 取組主体

- ・大津留まちづくり協議会等 唐辛子栽培戸数:32戸(※R7年度時点)



大津留地区の風景

### 1 きっかけ

- ・高齢化で担い手がなくなった地元の「おいちゃん」4人が自分たちの土地で育てた小麦を使ってうどんを打ち、それを地域振興・交流の一環として提供する取組から始まった。

### 2 取組内容と成果

- ・うどんは「大津留地区内で栽培の小麦使用」を売りにしていると同様に、唐辛子も地元産を使うことで地域性を強調している。
- ・唐辛子は地域の土壌や栽培体制に適した作物で、高収益となるように、販売戦略と合わせた取組みとした。
- ・地区市内外のリピーターも非常に多く獲得している。
- ・通販・お取り寄せ形態への展開を行っており、店頭以外のチャンネルを活用している。
- ・由布市のふるさと納税返礼品としても登録し、地域の取組をPRしている。

### 3 今後の展望

- ・今後は由布市内他地域、あるいは県外とのつながりを強めて観光資源として位置づけると、来訪者増が期待できる。



大葉とり天  
ぶっかけうどんカボス入り



赤とうがらし栽培

## 米・麦・大豆等の生産と農村交流～谷むらづくり協議会～

### 取組のポイント

- ・地域内の住民減少により、生産体制/地域活動の維持が課題。
- ・集落営農の活動と連携した「むらづくり協議会」の活動が進行中。

### 取組主体

- ・谷むらづくり協議会 /(農)なかえ 対象面積:24ha(地域計画掲載)



児童の農業体験活動

### 1 きっかけ

- ・谷小学校の児童数減少に伴い、閉校の危機が迫った状況下となっていた。
- ・集落営農法人「なかえ」の活動を基調とし、むらづくり協議会設立の機運があった。

### 2 取組内容と成果

- ・「集落営農法人 なかえ代表」=「谷むらづくり協議 会長」のリーダーの一本化により、農業を中心とした地域づくりの推進体制が図られている。
- ・地域内の児童・生徒との農業体験活動や地理的利点を活かした、移住促進活動に取り組む。

### 3 今後の展望

- ・地域活動を続けていくための自主財源の確保や、環境保全等も含めた耕作放棄地の利活用に向けて特産品の開発等を行う。
- ・谷地域の移住定住/関係人口の創出を目指し、地域ならではの素材を活用した体験活動等の取組を行う。

<https://www.instagram.com/yufushi.tanimura/>



取組の様子



取組の様子

## 国東半島峯道ロングトレイル×農村民泊

## 取組のポイント

- ・国東半島峯道ロングトレイルのスタートとゴールへの移動方法が課題となっていたが、農村民泊での送迎が可能になった。
- ・さらに登山客と地域交流が実現。

## 取組主体

- ・(一社)国東市観光協会、農村民泊先9軒



国東半島峯道ロングトレイルルート

## 1 きっかけ

- ・国東半島峯道ロングトレイルは六郷満山峯入行の道をベースとし、国東市と豊後高田市にまたがる10コース全長約120キロの道。自然や文化を味わう事が出来る事から近年は日本人だけでなく、インバウンドからの需要も増えている。しかし公共交通手段が乏しく、車での場合もスタートとゴールの場所が違うため、個人客の移動手段が必要だった。

## 2 取組内容と成果

- ・国東市内では教育旅行を中心に農村民泊が2019年まで活発に受け入れを行っていたがコロナ禍で中止が続き、また大口だった北九州市の中学生の農泊体験学習もなくなった。教育旅行だけでなく一般客の宿泊も受け入れていく流れとなり、送迎が可能な農村民泊を国東半島峯道ロングトレイルの移動手段の解決に繋げた。
- ・農村民泊を行っている家庭へ送迎の理解と、宿泊単価を引き上げた。
- ・この結果、国東半島峯道ロングトレイルを目的とする方の移動手段の解決ができ、農村民泊を利用する事で地域交流も可能となった。

## 3 今後の展望

- ・今後は、コロナ禍以降大幅に減ってしまった農村民泊を取組む家庭を増やし、国東半島峯道ロングトレイルと組み合わせた国東の魅力を味わえる自然体験、文化体験、農泊体験の構築。地域のための観光づくりに取り組む！



民泊家庭での食事の様子



トレイルの様子

## 日本の田舎暮らしを体験&amp;秘境体験（パックラフト）

## 取組のポイント

- ・自然豊かな由布川峡谷で日本では珍しいパックラフト等アクティビティツアーを行うことにより、新たな観光資源として由布市の魅力を伝える。

## 取組主体

- ・一般社団法人 ユフイズム（設立：令和2年）



由布川峡谷

## 1 きっかけ

- ・由布市は豊かな自然環境や農産物、伝統ある文化はあるが十分なPR活動ができておらず、「滞在型・循環型」の体験型旅行商品が提供できていないため、由布市の魅力の発掘と発信を目的として、農泊体験者の確保にむけた「プログラムツアー」として事業を開始した。

## 2 取組内容と成果

- ・令和3年7月に「イッテQ」のロケ地としてパックラフトが選ばれ、全国放送された事がきっかけで多くの予約が入った。
- ・現在も人気のアクティビティプランとして予約者数が年々増加傾向にある。

## 3 今後の展望

- ・農泊体験と連携した旅行プランの検討。
- ・ネット・旅行会社への営業等含めた宣伝・広報を実施し更なる利用者確保に努める。
- ・インバウンド客への対応を行い、交流人口増加を図る。



パックラフトの様子



リバートレッキングの様子

## 地元の資源を生かした文化体験・農泊事業

### 取組のポイント

- ・高齢化、過疎化、生産者の不足により衰退する地元地域の振興のために、地域資源と農泊事業を組み合わせで発信、魅力発掘に取り組む。

### 取組主体

- ・宇佐市院内町大坪地区(宇佐南院内地域プロジェクト推進協議会ほか院内町地域の各組織)



地域の景観

### 1 きっかけ

- ・高齢化・過疎化により今後の農地維持や地域の存続が危ぶまれていたため、地域の有志と「宇佐南院内地域プロジェクト推進協議会」を令和6年度に設立。農業関係団体、地場企業、建設業協会、大学、国・県・市と幅広い分野からメンバーを揃え、各組織や大学と連携しつつ地域資源の魅力を発掘、農泊を通じた農村の魅力発信を図る取り組みが、院内町大坪を中心に開始。

### 2 取組内容と成果

- ・中核団体や連携団体に食育や、地域の「食」(柚子胡椒、こんにゃく、ジビエ等)をテーマとした料理+農業体験+食事を、古民家の趣を生かした農泊施設とともに提供。
- ・日本文理大学ほか地域外の方々と地域資源を楽しみながら活用する方法を模索することで、関係人口拡大と地域活性化、持続可能な地域作りを目指していく。
- ・活動の足掛かりとして令和7年6月に田植え体験会、9月にゆずごしょう作り体験会、10月には稲刈り体験会を実施。およそ各回30~40人程の参加者があり、今後の活動内容の参考とする。また、日本文理大学生の意見を取り入れた農泊施設改修が進行中。
- 令和8年度の本格始動に向けて、大学ほか関係者の意見を取り入れたおもてなし内容の調整中である。

### 3 今後の展望

- ・今後も大学から意見や知見を受けて事業の磨き上げを行いつつ、都市と地域の交流及び地域の魅力発掘・発信。
- ・大学生によるジビエ餃子、米粉餃子など地場産品を活用した商品の開発を行う。

### 4 活用した事業

- ・農山漁村振興交付金(農山漁村発イノベーション推進・整備事業)



稲刈り体験会



ソーセージ作り体験

## 「ゆふマッチボックス」による、人材確保

### 取組のポイント

- ・市内の慢性的な人材不足の緩和・解消。
- ・世代や性別を問わず多様で柔軟な働き方を支援。

### 取組主体

- ・由布市商工観光課



ゆふマッチボックスの紹介HP

### 1 きっかけ

- ・宿泊業を中心に、コロナ禍があけ規制が緩和されたことで、観光客が急激に戻ってきた状況の中、従業員の不足により受け入れることができないという事業者様からの声が導入のきっかけとなった。

### 2 取組内容と成果

- ・短期に求人・求職を取り扱うクラウド型のマッチングサービス「ゆふマッチボックス」を導入。
- ・掲載する求人は、「単日バイト」と「体験就業」が選択でき、状況に適した求人が掲載できる。
- ・現在(R7.8月)、宿泊業を中心に、福祉・介護、農林業等約90の事業所と約800人の求職者に登録してもらい慢性的な人材不足の緩和・解消を目指している。

### 3 今後の展望

- ・関係機関等と連携し求人件数、求職者登録数の増加に努める。(農林業事業者へ利用呼びかけ)
- ・短期から中長期就業につながる取組みを支援し、人手不足の根本的な解決を図る。



取組の様子



取組の様子

## 農業×スキマ時間で新しい雇用のカタチ

## 取組のポイント

- ・スキマ時間を有効に活用した人材の確保により、地域農業の安定と効率的な農業経営を実現。

**取組主体** 九重町（九重町、九重町商工会、九重町観光協会、一般社団法人このえ町づくり公社、株式会社タイミー）



## 1 きっかけ

- ・農業における高齢化・人手不足についてはここ近年の重要課題。
- ・特に収穫などの繁忙期をはじめ、台風などの悪天候による被害に対して迅速に対応できる労働力不足は深刻化していた。

## 2 取組内容と成果

- ・株式会社タイミーと九重町及び町関係団体が包括連携協定を締結。
- ・農業経営者向け活用セミナーを開催、業務内容の切出しや活用事例を紹介。
- ・この結果、スキマ時間を活用したアルバイトの機会を提供することで、農業における人手不足の課題を緩和し、新たな雇用の創出に繋がった。
- ・農業体験の機会としても活用でき、スキマ時間を通じて就農を検討されている方に農業の魅力を伝えることができた。

## 3 今後の展望

- ・今後は、県内外問わず広域での周知を実施、利用者の増加に努めていく。
- ・担い手を希望する方とのマッチングとしても活用していく。
- ・宿泊施設、観光施設、飲食店などの他産業との連携が生まれ地域の活性化が期待できる。

## 4 活用した事業

- ・特になし



包括連携協定式の様子



農業者向けセミナーの様子

## 直売所を拠点とした中山間地域の活性化 道の駅なかつ「春夏秋冬（ひととせ）」集出荷サービス

### 取組のポイント

- ・中山間地域における物流の課題解決へ向けて、直売所が積極的な集配を行うことで、地域が活性化し生産者の所得向上に大きく貢献。
- ・山間地の直売所と連携したことで、広域な販売が実現。

### 取組主体

- ・JAおおいたオアシス春夏秋冬 運営主体:JAおおいた 設立:平成26年

### 1 きっかけ

- ・中山間地域における生産者の高齢化や農業の担い手不足により、生産者が作った地域農産物を円滑に出荷・販売する体制が整っておらず、新鮮な農産物を地域の直売所・広域のエリアに販売する仕組みが必要だった。

### 2 取組内容と成果

- ・山間部の各出荷場を2つの集荷ルートに分けて、集荷曜日と集荷時間を設定。
- ・山間部の各直売所とオアシス春夏秋冬が連携し、農産物の円滑な集配をサポート。
- ・オアシス春夏秋冬から福岡県都市部のスーパーのインショップへ農産物を配送。
- ・この結果、中山間地域における生産者の農産物を隅々まで集配することができ、山間部の直売所との連携を強固にすると共に、福岡県都市部と広域に販売できる仕組みが実現し、中山間地域の所得向上に貢献することができた。

### 3 今後の展望

- ・今後は、国・県の補助事業の活用を検討し、①食育活動を通じた消費者と生産者交流、②堆肥を活用した野菜などの新規ブランド品づくり、③研修や視察を通じた生産部会の活性化を行う。



オアシス春夏秋冬



直売所の陳列

## おかげさまで11年「梨直販の歩み」 ～「R210号を梨ロードに」～

### 取組のポイント

- ・庄内梨のブランド確立及び生産拡大へ向けて、生産者が消費者に直接販売することで、地域農業の活性化と地場産品の振興を図る。

### 取組主体

- ・由布市梨生産者直販協議会(設立:平成24年 参加戸数:19戸)



梨の直売所

### 1 きっかけ

(産地の声)

- ・庄内梨をPRし、庄内へ足を運んでもらいたい。
- ・地域で梨を販売し自分の梨のファン(顧客)をつかみたい。
- ・規格外の梨を活用したい。

### 2 取組内容と成果

- ・生産者の顔が見えるお客様との関係づくり。
- ・梨ロードマップを制作し取り組みをPR。
- ・R2年よりスタンプラリーの開催(応募件数:開催当初比で約5.9倍)。
- ・加工品の開発→若年層が手軽に楽しめて「梨」に目を向けてほしいという思い。
- ・この結果、毎年多くのメディア等に露出できるようになり大きな宣伝効果を得る。

### 3 今後の展望

- ・大規模消費地(大分市・別府市)でのイベント出展。
- ・課題の若年層(20代～40代)へのPR及びリピーター化へ。
- ・庄内梨を起爆剤とした庄内地域のにぎわい創出。



梨ロード記念式典



梨のシェーク

## 農村RMOモデルの育成による地域活性化と地域継承

## 取組のポイント

- ・自治協が中心となり、多様な団体と連携し運営を組織化することで地域活性化と地域継承の基盤構築。
- ・旧山浦小学校舎を拠点に、農地保全、地域資源活用、生活支援に取り組む。

## 取組主体

- ・山浦地域活性化協議会 対象戸数:254戸 対象面積:19.87km<sup>2</sup>

## 1 きっかけ

- ・急速な少子高齢化、過疎化が進み、家族や集落では解決できない地域課題が生じ、高齢者等の生活を地域全体で支え、助け合う必要が生じてきた。

## 2 取組内容と成果

## 【農用地保全】

- ・ベテランハンターが指導できる体制を構築し、地域の若手へ狩猟免許取得を促進。
- ・遊休地にレンゲ草・菜の花など景観整備。

## 【地域資源活用】

- ・野草の加工・販売、野草カフェやよもぎ蒸し施設の運営による地域経済循環の促進。

## 【生活支援】

- ・サロンなど通いの場や野草の加工場を設け、住民へ社会参加の機会や安定した作業環境を整備。
- ・福祉食堂による高齢者の孤食防止と見守り活動の実施。

## 3 今後の展望

- ・住み慣れた地域で、「楽しみと活躍の場」のある生活環境を創ることで互いに支え合い、癒される地域を次世代へ継承する。

## 4 活用した事業 農山漁村振興交付金(国庫:R7~R9)



地域の景例（水田にレンゲ草）



野草、薬草の栽培



サロンの様子

## 世界に届けよう、大分の宝

## 取組のポイント

- ・日本で唯一守ってきた七島藺の伝統文化と産業の維持を図る。
- ・370年以上の歴史を持つ「くにさき七島藺表」という希少な畳表を守る。

## 取組主体

- ・くにさき七島藺振興会      対象戸数:7戸   対象面積:0.6ha



い草に比べて強靱性及び耐久性  
が高い「七島藺」

## 1 きっかけ

- ・庶民の暮らしを支え、癒してきた国東の七島藺でしたが、今では国東市安岐地区の複数の農家だけでの栽培となり、この状況を変えようと平成22年から七島藺を愛する人々によって「くにさき七島藺振興会」を発足。

## 2 取組内容と成果

- ・全国で唯一の産地として七島藺を「くにさき七島藺」として守っている。
- ・品質管理を行うことで上質な七島藺を栽培し、これを使った畳表や工芸品は昔のものとは比較にならないほど洗練されている。

## 3 今後の展望

- ・七島藺表の生産に欠かせない「織機」の数が不足しており、七島藺の需要が高まる中、日本で唯一守ってきた七島藺の伝統文化と産業を維持していくことが困難になることから、七島藺織機の図面化を図る。

## 4 活用した事業

- ・大分県地域創造総合補助金(R8実施予定)



「七島藺」と「工芸品」



「半自動織機」

## 栗の復活と地域活性化 ～宇目のクリを食うちくり～

### 取組のポイント

- ・元々栗の生産地だった地域が、高齢化や離農により荒廃。
- ・地元企業や別分野からの参入で、再び産地化を目指す。
- ・くり学校を開校、多くの人が技術や知識を学べる場を創設。
- ・市や県と協力し、宇目農林公社が遊休農地の解消に動いた。



### 取組主体

宇目地域(くり学校入校者 企業1社1.1ha 個人34人8.7ha)

宇目のクリ

### 1 きっかけ

- ・元々、くりの一大生産地であったが、高齢化や離農により栽培面積が減り、荒廃農地へ変貌。
  - ・地元の異業種からの参入や、別分野で活動していた個人が一事業として栗栽培を選択。
- また、農家が栗栽培を始めたり、自己所有の遊休農地を活用。

### 2 取組内容と成果

- ・R2～R4にくり学校を開催、座学と実習を行い、その後も普及員等の指導を受けて栽培を行っている。
- ・6次化により、唄げんか焼や栗ジャムといった新しい特産品が生まれた。
- ・現在も経営規模を拡大する事例有。

### 3 今後の展望

- ・くり学校の制度は終了したが、講習会等で技術や知識の指導は継続。
- ・これまで植栽した木が成育し、これから実をつけていく予定。

### 4 活用した事業等

- ・果樹経営支援対策事業(国庫)、宇目栗産地拡大スタートアップ事業(県単)



くり学校「座学」



くり学校「実習」

## 原木を供給してクヌギ林の整備と椎茸生産者の増加を

## 取組のポイント

- ・森林環境譲与税を活用して更新伐採を行い、病虫害発生リスクを低減する
- ・伐採したクヌギ材を玉切り、原木として椎茸生産者へ供給する。

## 取組主体

- ・竹田市しいたけ原木供給会



大径化したクヌギ

## 1 きっかけ

- ・椎茸生産者の減少、高齢化により、下刈り、伐採、玉切り、運搬等の重労働が困難になり、植菌数の低下につながっている。
- ・伐採されなくなったことによりクヌギが大径化し、「ナラ枯れ」を媒介するカシノナガキクイムシ等の病虫害発生リスクが高まっている。

## 2 取組内容と成果

- ・竹田市しいたけ原木供給会が、森林所有者からの整備依頼に基づきクヌギ林を更新伐採。  
(R6－事業面積 8.62ha、事業費 790万円 ※譲与税 570万円)
- ・伐採で生まれた材を玉切りし、原木として椎茸生産者に提供。  
(R6－供給者数 23名、供給本数 約26,000本)
- ・更新伐採を行うことで病虫害発生リスクを低減。

## 3 今後の展望

- ・意欲はあるが、伐採が難しい高齢農家やクヌギ林を持たない新規就農者を支援。

## 4 活用した事業

- ・大分県しいたけ生産新規参入者サポート事業



玉切りされたクヌギ



集積された原木

## そばの振興による地域の活性化

### 取組のポイント

- ・新たな水田転換作物による農村地域の活性化。
- ・そば文化と観光資源を活かし、生産、加工、販売、消費の一体化を構築。

### 取組主体

- ・豊後高田そば生産組合 対象集落数:17集落 対象面積:年間約100ha



そばによる地域振興

### 1 きっかけ

- ・転換作物であった大豆の連作に起因する収量低迷の代替品目を検討。
- ・昭和の町というイメージや観光資源にマッチした「そば」を選択。

### 2 取組内容と成果

- ・平成14年に試験栽培し、翌年度から本格栽培へ。
- ・6次化による加工品開発に加え、そば打ち体験施設、手打ちそば認定店制度を創出。
- ・そば道場有段者 265人 手打ちそば認定店 12店舗（R8.1月末）。
- ・加工品開発、ふるさと納税返礼品、各種イベント出展によるPR。

### 3 今後の展望

- ・高齢化等による担い手不足解消に向け新たな栽培者の確保。
- ・生産面積並びに生産量の安定確保。
- ・気候変動ならびに連作障害対策。



段位認定会（そば道場）



手打ちそば認定店

「もったいないをカタチに」あますところ”なし”  
梨の規格外品等を加工した商品開発

## 取組のポイント

- ・由布市内で生産された梨の中で規格外品を使用した特産品を開発・販売することにより、梨のブランド化の一助を担う。また、SDGsの取り組みに貢献する。

## 取組主体

- ・一般社団法人 ユフイズム(設立:令和2年)



梨の加工品販売

## 1 きっかけ

- ・由布市の地域資源を活用した特産品を開発することにより由布市の魅力アップ及び「ゆふブランド」の確立を図るため、庄内梨を使用した商品が少ないところに着目し、規格外の梨を使用した新たな特産品を開発を行った。

## 2 取組内容と成果

- ・梨ピューレの開発(令和6年度)。  
現在、飲食業界に営業を行い販路確保を図っている。
- ・令和7年度に「梨蜜シリーズ」を販売。  
メディアに露出したことが影響し問い合わせが多くなってる。

## 3 今後の展望

- ・お土産品としての商品を開発し、空港及び駅に営業を行う。
- ・梨ピューレの販路拡大及び生産拡大に向けて取り組みを続ける。



梨蜜シリーズ  
左：焼肉たれ  
右：シロップ



特産品販売の様子

## 飼料用米の契約栽培による地域循環型ビジネスの展開

### 取組のポイント

- ・自給飼料生産拡大の課題解決へ向けて、養鶏農家・畜産・水田関係部署が連携し飼料用米を活用することで、地域循環型ビジネスを展開。

### 取組主体

- ・有限会社 鈴木養鶏場 設立：昭和44年、経営規模：飼養羽数 20万羽  
年間飼料用米利用量：1,800t(R7)



「豊の米卵」の商品化

### 1 きっかけ

- ・海外配合飼料価格高騰の影響を受け、自給飼料生産拡大を図るため水田を活用した飼料用米生産が必要だった。
- ・関係機関と連携し、飼料用米の給与試験や多収性飼料用米の栽培実証を行い実用化へ。

### 2 取組内容と成果

- ・平成20年度より本格的に利用開始し、安心・安全「豊の米卵」として商品化。  
当養鶏場の鶏卵・加工品を販売する「すずらん食品館」で、6次産業化を実現。  
飼料用米の活用により安定経営を図り、雇用の拡大により地域経済の活性化を実現。
- ・この結果、国の水田活用交付金を活用し、現在70戸(県内50戸、県外20戸)以上の耕種農家と契約栽培し、飼料用米と引き換えに鶏糞堆肥を田んぼへ還元。  
「地域の水田を守り、エコや地産地消への貢献」に取り組んでいる。

### 3 今後の展望

- ・主食用米の増産など水田政策の見直しの中においても、飼料用米の確保を継続する。

### 4 活用した事業

- ・畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業(施設整備・機械導入)(国庫)



飼料用米の収穫



採卵鶏へ利用

## 飼料用米を生産して地域の畜産農家へ供給

### 取組のポイント

- ・飼料用米を中心に耕種農家と畜産農家の耕畜連携を進め、耕種農家の水田の利活用と畜産農家の配合飼料価格高騰対策を図る。

### 取組主体

- ・大分県豊肥振興局 ・JAおおいた ・豊後大野市 ・竹田市
- ・大分県畜産協会



久住高原で放牧される牛たち

### 1 きっかけ

- ・繁殖農家による稲WCSの生産は盛んではあるが、繁殖農家数、飼養頭数の減少により栽培面積が伸び悩んでいる。
- ・養豚、養鶏業が盛んな地域にもかかわらず、飼料用米の生産は少なかった。
- ・円安や物価高騰で、配合飼料が高騰し、畜産農家の経営を圧迫している。

### 2 取組内容と成果

- ・実需者である、養豚、養鶏、採卵業者などに必要量を調査。
- ・大規模農家や集落営農法人等を中心に飼料用米(専用品種)の作付を推進。
- ・補助事業を活用し、保管施設の建設や運搬車、堆肥散布機等の導入を支援。
- ・県域で耕種農家と畜産農家をマッチング。

### 3 今後の展望

- ・主食用米価格や水田活用交付金制度の見直しの動向を注視。
- ・地域内で稲WCSや飼料用米と堆肥が循環する仕組みづくり。
- ・稲WCSのマッチングや稲SGS生産も検討。

### 4 活用した事業

- ・大分県耕畜連携堆肥活用推進事業



## 山の宝、ジビエを牛豚鶏に次ぐ第4の肉に！

### 取組のポイント

- ・地域の困り事を解決するため食肉加工業のプロとしてジビエ生産に参入。
- ・日本初のジビエ処理研修施設を設立し、人材育成に貢献。

### 取組主体

- ・宇佐ジビエファクトリー 運営主体：有限会社サンセイ 設立：平成29年  
処理頭数：シカ1,708頭 イノシシ611頭(R6)



宇佐ジビエファクトリーHPから

### 1 きっかけ

- ・宇佐地域の水田・果樹等で獣害が頻発し、困っている農家からの相談で処理加工施設を設立。
- ・捕獲した個体が廃棄されている現状を打破するためにジビエ処理業に取り組んだ。

### 2 取組内容と成果

- ・令和元年に国産ジビエ認証を取得し、衛生や品質管理を徹底した処理方法の開発や高性能設備の導入を行った。
- ・ジビエ販売が軌道に乗り、猟師からの買取金額の増加など猟師の所得向上へ貢献、また高齢猟師には、猟場まで冷凍車で引き取りするサービスを実施。
- ・女性捌師も育成し、新たな雇用(7名)を創出。
- ・学生の社会見学やインターンシップ受入れ、学校給食へジビエ料理を提供。
- ・加工技術者の確保に苦慮しているジビエ業界の現状打破のため令和5年に「日本ジビエアカデミー」を開設し、美味しいジビエを作る為の基礎知識や捌き方、販売方法などを伝授。北海道や全国から73名が受講。

### 3 今後の展望

- ・「日本ジビエアカデミー」における人材育成を通じて、ジビエ業界のボトムアップ！

### 4 活用した事業 鳥獣被害投資総合対策交付金



シカ肉ローストステーキ



アカデミー講義の様子

## 地域を守り次世代へつなぐ保全活動

### ～シジミ調査と田んぼダムの取組～

#### 取組のポイント

- ・シジミの生育環境の保全是、地域環境を整える鍵。
- ・田んぼの貯留機能を利用し、大雨による浸水被害軽減に効果。

#### 取組主体

- ・北大神地区農村環境保全会議 構成員：9名  
対象農用地：6.3ha 農道：1.6km 水路：1.7km



シジミ調査の様子

#### 1 きっかけ

- ・農業用施設の老朽化や農業の担い手不足による耕作放棄地の増加など地域が抱える問題に対して、地域のために何をするべきかを話し合う中で、平成20年に団体を設立し、事業化へ。

#### 2 取組内容と成果

- ・農用地、農道、水路草刈り等により景観の阻害を除去し、営農活動や地域生活に支障のないように適切な管理を実施。泥上げ等を行い環境を整えていくことで、シジミの生育に影響しその特性により、きれいな水が循環する。
- ・随時、施設の点検や機械のメンテナンスを行い、早期発見、早期改善に努める。
- ・このような活動を続けてきた結果、地域における課題意識が共有され、解決方法が徐々に見えるようになり、日出町で初となる田んぼダムの取組に至った。

#### 3 今後の展望

- ・今後は、子供たちの農業体験や、隣接地区、団体への活動の呼びかけを行い、農業に関心を持てるよう機会を作ることや農業者の育成や地域を超えた協力体制を作ることなど、地域の発展を考えながら事業に取り組んでいく。

#### 4 活用した事業 多面的機能支払交付金(国庫)



地域での話し合い



田んぼダムの取組

## 「ホタル舞う棚田と水と美味しい米 平石」

(BGM：平石ソング)



### 取組のポイント

- ・農村の原風景を維持保全し、自然環境と農業の調和。
- ・地域をPRする取組として「平石ソング」を作詞。

### 取組主体 平石区/平石営農組合

対象戸数:43戸 (R7.9月末時点) 対象面積:40.1ha(地域計画掲載)

地域の景観

### 1 きっかけ

- ・農村での活動維持のためには、地域に住む住人だけではなく、地域外の応援者との交流が必要と考えていた。地域内では「ホタル観賞会」等のイベントを実施してきたが、更なるPRを検討していた(H17年頃)。

### 2 取組内容と成果

- ・ロゴマーク(画像3)を作成のため公募を実施、全国から応募により決定した。
- ・地域の魅力を集めたイメージソングを作成、作詞は地域内の代表者(大塚氏)、作曲は地区内に移住された方を縁に、「音の和music」が担当、CD作成に至る。
- ・この結果、イベント時に楽曲を披露するとともに、動画サイト(You Tube/イベント参加者による撮影)で広く広報。現在(R7年9月)でも、「ゆふいんラヂオ」局での時報として放送されている。

### 3 今後の展望

- ・取組の中心的な役割を担ってきた農事組合法人「庄内・ひらいし米倶楽部」は、R6年度に解散したものの、「自治区」及び「営農組合」が継承している。



「ホタル観賞会」



「ロゴマーク」

棚田の米とホタルが舞う自然豊かな平石をモチーフに

## みんなで協議会をつくって事務負担を軽減

### 取組のポイント

- ・提出書類の作成などの頻繁・煩雑な事務作業を協議会を設立し、職員が事務を支援することで集落の負担を軽減する。

### 取組主体

- ・直入町・久住町・竹田地域中山間地域等直接支払推進協議会



直入地域協議会総会の様子

### 1 きっかけ

- ・集落協定の事務を担う人材が見つからず、中山間直払事業に取り組めないという集落協定が出てきた。

### 2 取組内容と成果

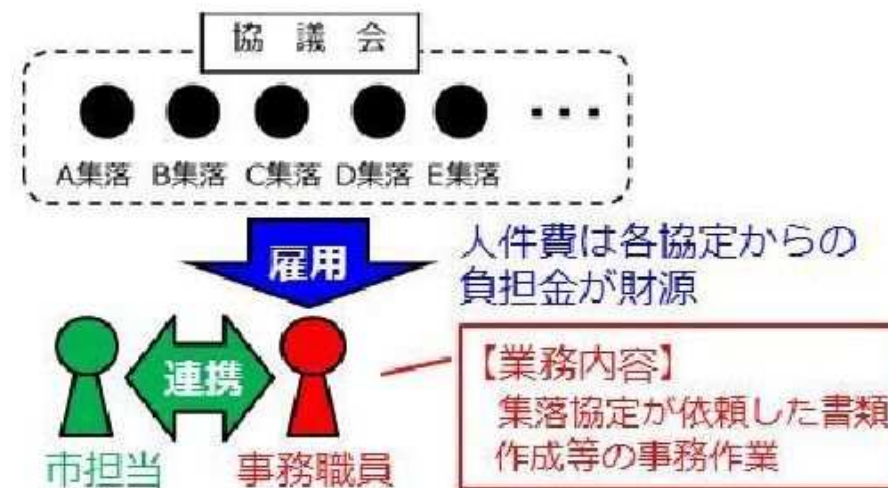
- ・集落協定地図の整理・修正。
- ・事業計画書、交付申請書、実績報告書、収支報告書などの書類の作成支援。
- ・総会資料や個人配分明細等の作成支援。
- ・旧直入町(21協定)、旧久住町(63協定)の全協定が協議会に参加し、運営に主体的に関わる。

### 3 今後の展望

- ・協議会のない竹田地域、荻地域で協議会の設立を推進(竹田…10月20日に設立、荻…今年度設立予定)。
- ・地域計画の範囲(旧小学校区単位)で広域協定の締結を推進。

### 4 活用した事業

- ・中山間地域等直接支払交付金制度



## 「田んぼダム」で地域防災と農業振興を両立

### 取組のポイント

- ・多面的機能支払交付金の加算を獲得しつつ、下流域の洪水被害を軽減。

### 取組主体

- ・農事組合法人 あさひ営農組合、構成員：165名、協定農地面積：59.7ha



「田んぼダム」排水柵と堰板

### 1 きっかけ

- ・平成24年度に営農組合を設立以来、主食用水稻(なつほのか)と、飼料用のWCS用稲などを栽培。
- ・県が開催した「田んぼダム」研修で、地域防災に役立つ取組であることと、多面的機能支払交付金の加算措置があることを知る。

### 2 取組内容と成果

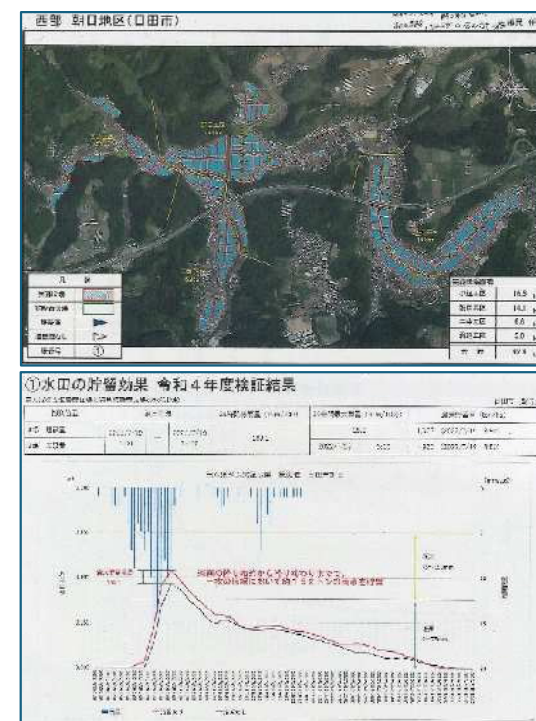
- ・令和4年度に5.4haの水田で「田んぼダム」実証実験を実施し、約152t/haの雨水を貯留し、ピーク時の排水量を24%低減する効果を確認。
- ・令和5年度から、地区全域の水田42haで取り組み、豪雨時の河川への雨水の流出を抑制。
- ・法人の歳入として、多面的機能支払交付金の「田んぼダム」加算を獲得。

### 3 今後の展望

- ・畦畔管理等を確実にしながら、水田を活用した地域防災の取組と地域農業の振興の両立を図る。

### 4 活用した事業

- ・多面的機能支払交付金



水田の貯留効果

### 高森・竹田・高千穂地域鳥獣害被害防止広域対策

#### 取組のポイント

- ・集落内の鳥獣に対する意識改革活動
- ・鳥獣被害防止対策に係る関係機関との連携による体制強化
- ・捕獲と防護柵(電気柵やワイヤーメッシュ柵等)両方での広域的な被害防止対策
- ・捕獲に従事する狩猟者の育成を積極的に行う



鳥獣対策研修会（竹田市）

#### 取組主体

- ・高森・竹田・高千穂地域鳥獣害防止広域対策協議会

#### 1 きっかけ

- ・平成19年度から高森町(熊本県)・竹田市(大分県)・高千穂町(宮崎県)の3県境を越えた広域対策協議会を設立し、有害鳥獣の生息状況調査・被害調査を経て、①侵入させないための『侵入防止対策』②集落に寄せ付けないための『環境整備』③獲るための『捕獲』をそれぞれのモデル地区を対象に実施してきた。

#### 2 成果

- ・金網柵を補助し、被害対策が図れた。
- ・有害捕獲参加者へのくくり罠の支給を行うことで有害捕獲に係る負担軽減が図れた。
- ・研修会の実施により集落の鳥獣に対する意識改革により狩猟者の増加につながった。  
また、狩猟者のスキル向上が図られた。
- ・新規狩猟免許取得者に対しての補助を行うことで負担軽減が図れた。

#### 3 今後の展望

- ・新規狩猟免許取得の推進を図るとともに、既取得者に対する有害捕獲時の技術向上や安全確保の徹底を図る。
- ・地域住民に対して、集落で取り組む鳥獣害対策の普及啓発を図る。
- ・これまでに整備した防護柵の設置地区における管理状況や被害の発生状況などについて確認・評価を行う。
- ・防護柵未整備地区に対して、電気柵や金網柵の整備を実施する。

#### 4 活用した事業

- ・鳥獣被害防止総合対策交付金

## 農業遺産登録等を契機に、基盤整備の機運が醸成

## 取組のポイント

- ・将来の営農継続に必要な湿田等の課題解決に向けた基盤整備の機運が醸成。
- ・基盤整備に向けた農地の受け皿として(農)網井ファームを設立。

## 取組主体

- ・(農)網井ファーム 設立:R2年、構成員84名、常時従事者11名  
経営規模:7.9ha(水稻+かんしょ0.2ha)



網井地区等の位置図

## 1 きっかけ

- ・旭日地区の網井ため池群は6つのため池を用水路でつなぎ連携した管理システム。
- ・ため池群の農業遺産登録や近隣の池ノ内地区の基盤整備を契機に、将来も農地を荒らさないために湿田や水路の老朽化などの課題を解消する基盤整備の機運が醸成。
- ・地域の農地を守る受け皿として(農)網井ファームを設立した。

## 2 取組内容(具体的数値等)

- ・網井地区の農地整備は、事業費1,351百万円、区画整理56.7haを実施。
- ・担い手は、(農)網井ファーム、個人農家5名
- ・水田へ高収益作物(かんしょ)10haの導入に向け試験栽培に取り組んでいる。

## 3 今後の展望

- ・基盤整備に伴う農地集積や高収益作物の導入により地域農業の構造改革を推進！
- ・近隣の池ノ内では、こねぎA=2haの団地を建設、さらにA=0.6haの規模拡大。重藤では、荒廃農地を活用した企業参入による大規模園芸団地の整備が進んでいる！

## 4 活用した事業

- ・水田畑地化推進基盤整備事業(県 R3~R9)



湿田の状況



整備後の作付状況

## 「でこぼこ・かちかち・イロイロ」を世界遺産に

### 取組のポイント

- ・世界かんがい施設遺産の認定・登録を契機に、歴史あるかんがい施設や農業、地域に誇りをもち、維持・管理に関する意識向上と「教育」「観光」「農業」の推進を図る。

### 取組主体

- ・竹田市世界かんがい施設遺産登録推進実行委員会(竹田市・大分県・土地連・改良区)



富士緒井路 白水ため池  
通称“白水ダム”

### 1 きっかけ

- ・普段から“当たり前”に使用しているかんがい施設だが、先人たちの熱い想いや苦労、歴史が詰まっており、貴重なものであることを多くの人に知ってもらいたい。

### 2 取組内容と成果

- ・世界かんがい施設遺産の申請・登録に向けた施設を知る取り組み。
- ・施設を築造した先人たちの熱意や苦労を子どもたちに知ってもらう。
- ・施設の維持・管理に対する意識向上。

### 3 今後の展望

- ・先人たちの苦労と努力により、今の農業の発展があることを学ぶことで、地域住民や子どもたちに自分が生まれ育ったまちに誇りをもってもらう。
- ・ヘリテージツーリズム(施設遺産めぐり)の推進や周辺の自然、地域文化などと結び付けたグリーンツーリズムの推進など地域の活性化を図る。
- ・遺産によって運ばれた水や自然に育まれた農産物のブランド化を図る。
- ・施設の持続的な活用や維持・管理への支援と意識の向上を図る。

### 3 活用した事業

- ・竹田市世界かんがい施設遺産登録推進事業補助金



明正井路 六連橋



小学生の田植え体験